

北区の部屋だより

第86号

2016年9月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 28 年 9 月発行

北区こぼれ話 第85回

平塚らいてうの田端ライフ — 便利だった御用聞きと通い帳 —



平塚らいてうの言葉「元始、女性は太陽であった」は、とても有名です。実は、平塚らいてうは、北区と縁のある人です。大正 6 年（1917）らいてうは、神奈川県茅ヶ崎から転居し、上中里に家を借ります。自伝の中で、その場所を「滝野川区役所の裏」と表現しています。ただし、滝野川区の成立は、昭和 7 年（1932）ですので、当時は、まだ東京府北豊島郡滝野川町大字上中里でした。ここで、らいてうは、第 2 子である長男を生み、育児をしながら徹夜で執筆を続けるという生活に苦しみます。

大正 7 年（1918）らいてうは、両親の協力により、田端に家を買いました。前の持ち主は、写真家でした。場所は「坂道をへだてて、芥川龍之介さんのところの入口と向かい合った崖上」ということです。芥川邸近くの日当たりのよい二階建てで、15 畳ほどのアトリエがありました。庭も建坪も大きく、らいてうは自分の部屋が持てたと喜びました。家族は、画家の夫と二人の子ども、ほかに、住みこみのお手伝いさんを雇っていました。田端文士芸術家村での優雅な生活を想像してしまいがちですが、実情はそうではなかったのです。お手伝いさんについては、らいてうが執筆活動をするために、家事を手伝ってくれる人が必要だったからです。むしろ、らいてうは、質屋通いをして家計をやりくりしていました。

ただ、今と違って、食糧品などを買うときに現金は必要ありませんでした。「ツケ」という言葉がありますが、各家の勝手口へ来る「御用聞き」の方に、ツケておくように言えば、現金を渡さなくても良かったのです。その店員さんは「通い帳」という帳面に、日時、商品名、個数、金額を書きつけておき、月末などにまとめて請求しました。今では「御用聞き」そのものが死語かもしれせん。アニメの「サザエさん」に出てくる「三河屋のサブちゃん」の仕事が御用聞きです。

らいてうは、田端での生活について「米屋でも酒屋でも、通い帳だけで現金なしで買い物ができるうえ、このころはどこの店でも、最大限三ヵ月までは待ってくれましたから、百日の間は殷様でいられるということです。三ヵ月から先になると、少しずつ入金すれば、『毎度ありがとうございます』といって、注文の品物を届けてくれるのがふつうでした」と書いています。しかし、

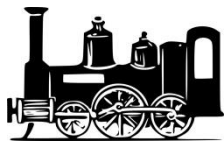
年末となると話は別です。その年のツケは、その年のうちにということでしょう。「それでも、大晦日には、今まで溜めていた借りを払わねばなりませんから、借金取りこわさに一家中で — むろん女中もいっしょに、家を一日中あけて時間をすごした」ことが幾度かあったと言います（『元始、女性に太陽であった（完結編）— 平塚らいてう自伝』大月書店）。おそらく、田端で、このような苦労をしていた作家や芸術家は、らいてうだけではなかったでしょう。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

写真：十条の三河屋酒店「通い帳」（右上：表紙／左下：裏表紙）昭和 4 年（柴田家文書）



今月の展示



田端駅周辺 昭和から平成へ

◆展示期間：平成 28 年 8 月 26 日(金)

～ 9 月 22 日(木)

◆展示場所：「北区の部屋」展示コーナー



国鉄時代の田端機関区表札
(JR 東日本田端運転所)



新田端大橋開通式 昭和 62 年

今年で開業 120 周年を迎えた田端駅。その田端駅周辺の移り変わりを「北区の部屋」独自の視点で描きます。昭和 59 年頃に撮影された田端駅周辺の大きな航空写真や、駅周辺の変化が分かる風景写真、そして知られざる鉄道遺産について展示します。



DVD「北区映像アーカイブによる街おこしシリーズ」第 2 弾貸出開始!!

録された映像フィルムは、テレシネ化（デジタル化）して多くの方に見ていただけるよう、今年度より DVD の貸出しを始めました。

- 今回はその第 2 弾として以下の 4 本を公開します。昭和の頃の音無川流域や飛鳥山、運動会や夏祭りなどのプライベート映像から、北区の懐かしい記憶がよみがえります。
- DVD「北区映像アーカイブによる街おこしシリーズ」は、北区の部屋の DVD 配架棚にあります。ぜひご覧になってみてください。



シリーズ	サブタイトル	撮影年	上映分数	内 容
vol. 1	音無川、音無温泉、王子神社、飛鳥山、飛鳥山タワー	1972 年	6 分 8 秒	音無川と呼ばれた一代景勝地、川辺には紫陽花が咲き、川にはつり橋がかかり、音無川温泉があった。
vol. 2	滝野川 5 丁目住宅の増築風景	1972 年	2 分 33 秒	洋品店の店舗兼住宅の住宅部分の増築作業風景。当時はまだ大工の棟梁が家の設計、施工まですべて責任を持って担当した。
vol. 12	神谷 2 丁目、東十条 3 丁目、石川幼稚園運動会	1975 年 ～ 1977 年	16 分 59 秒	校庭で砂遊びや鉄棒、自宅前で三輪車遊び。子供たちの遊ぶ姿や、幼稚園の運動会での玉入れやお弁当、ダンスや徒競走を記録。
vol. 30	豊島 1 丁目夏祭り	1980 年	6 分 36 秒	豊島 1 丁目の夏祭り、撮影者の自宅を中心に 3 人の子供と近所の方が映っている。

《特別展示》「田端文士村」を世に出した作家 近藤富枝さんを偲ぶ

先日 7 月 24 日、作家：近藤富枝さんが 93 歳でご逝去されました。

幼少時から北区田端に育ち、「田端文士村」を世に出すきっかけを作られた方で、また、当時関連資料の収集保存を担っていた田端図書館に縁深い方でもありました。

ご逝去に接し、哀悼の意を表すとともに、その功績を偲び書籍展示を開催します。



◆開催期間：平成 28 年 8 月 26 日(金) ～ 11 月 23 日(水)

◆展示場所：中央図書館・田端文士村配架スペース(北区の部屋・カウンター側出入口正面の棚)

田端文士村 第 10 集より

北区の部屋だより

第87号

2016年10月

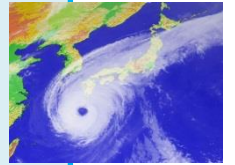


刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel.03-5993-1125 平成 28 年 10 月発行

北区こぼれ話 第86回

台風^{たいふう}の被害^{ひがい}と領主^{りょうしゅ}による救済^{きゅうさい} その1 ～「近^{きん}来^{らい}稀^{まれ}なる大風雨^{だいふうう}」～



台風列島とも称される日本には、過去に何度も大型の台風が到来し、列島各地に大きな被害をもたらせてきました。北区でいえば、昭和 33 年（1958）9 月の狩野川^{かのがわ}台風をご記憶の方も多いのではないでしょうか。石神井川^{しゃくじいがわ}が大氾濫^{だいはんらん}を起こし、低地部^{しんすい}を中心に多くの家々が浸水の被害に遭いました。そして、当然のことながら、江戸時代にも数多くの台風が到来しています。そのなかには、断片的な中たちではありますが、北区域の村々の被害状況を確認できるものもあります。

安政^{あんせい}3 年（1856）、この年は天候が不順で、5 月頃から雨が降らず、作物の生育が心配されていましたが、逆に 8 月に入ると雨が多くなり、特に 16 日以降はずっと雨天が続いていました。そして同月 25 日、前々日より降り続いていた微雨^{びう}が次第に強くなると、その後も風雨は激しさを増し、午後 8 時をまわる頃には「近^{きん}来^{らい}稀^{まれ}なる大風雨^{だいふうう}」となりました。江戸時代の史料では「大風雨」と記されることが多いのですが、内容から判断して台風と考えて間違いないでしょう。まさに台風の直撃です。

『武江年表^{ぶこうねんぴょう}』によれば、「人家^{とこどころ}、所々潰^{つぶ}たる数ふべからず」と江戸で大きな被害が出ていたことが確認できます。沿岸部はさらにひどく、大小の船は転覆しあるいは岸に打ち上げられ、高潮による家屋の損壊、家財の流失も続きました。また、人的な被害も大きく「水中^{でくし}に溺死^{けがにん}・怪人^{かいじん}算ふべからず」と記しています。一方で「この度の風雨、近郊は更なり」とあり、江戸近郊地域にも被害が及んでいたことが知られます。

この台風で、東叡山^{とうえいざん}（寛永寺^{かんえいじ}）領^{りょう}の村々にも大きな被害が出ました。村からの届け出を受けて領内を確認したところ、東叡山領村々全体で 609 軒もの潰^{つぶ}れ家が出ていたことが判明しています。このうち実際に被害状況がわかる上十^{かみじゅうじょう}条村・下十^{しもじゅうじょう}条村・稲付^{いねつけ}村・赤羽根^{あかばね}村（いずれも東叡山領分のみ）では、それぞれ 16 軒・7 軒・2 軒・2 軒の計 27 軒の潰れ家が出ています（「四ツ葉村文書」『北区史資料編近世 2』）。当然、これ以外の東叡山領村々でも、さらにいえば東叡山領以外の村々でも大きな被害が出ていたものと思われますが、残念ながら史料が残っていないのでわかりません。それでも、家屋を吹き倒すほどの猛烈な風雨が北区域を襲っていたことは紛れもない事実でしょう。

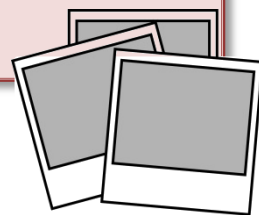
さて、こうした被害が出た場合、村ではどのように対応するのでしょうか。初動の対応としては、村人同士の相互扶助^{そうごふじょ}です。村で少しずつ金銭を出し合い、また穀物を取り集めて潰れ家を援助することになります。しかし、それだけではどうにもならないことが多く、今回の場合も領主である寛永寺に対し救済を求めて願い出ることになりました。その話しはまた次回。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示

テーマ: 移り変わる街並み～北区役所屋上からの展望～
期 間: 平成28年9月24日(土)～10月26日(水)
場 所: 「北区の部屋」展示コーナー

区民の方から提供された古い写真。それは1970年に北区役所の屋上から360度見渡して撮影された写真でした。北区役所周辺のかつての街並みを眺めつつ、街の移り変わりに思いを馳せてください。



「北区」が登場する本のリストを更新しました！



北区立図書館では、利用者の皆様にご協力いただき、北区の地域や施設が登場する本の情報をまとめた『「北区」が登場する本のリスト』を作成し、各図書館やホームページで公開しています。また、該当する本には、北区コミュニケーションマーク（さくらマーク）を貼ってわかるようにしています。

このリストを10月1日に更新しました。(新しい情報は★印を付けています)。ぜひ、ご覧ください。

引き続き北区の載っている本の情報を募集中！
「北区が載っている本を教えてください」用紙にご

記入のうえ、北区立図書館カウンタースタッフにお出しください。直接職員や電話でのご連絡でも結構です。

北区の載っている本もぜひ読んでみてくださいね！



北区立中央図書館「歴史講演会」 大谷美術館（古河邸）の歴史と現在

企画・運営 北区図書館活動区民の会

北区西ヶ原の旧古河庭園内にある大谷美術館（古河邸）は、近代日本の建築を基をつくったジョサイア・コンドルの設計で、現存する数少ない初期西洋建築の一つです。講師が同館の歴史と最近の活動についてお話しします。

講師: 塩谷義氏 (大谷美術館理事/東京大学名誉教授)

日時: 10月22日(土) 午後2時から4時

場所: 中央図書館 3階ホール

定員: 50名 (区内在住・在学・在勤の方優先)

申込: 往復はがきに講演名、住所(郵便番号)、氏名(ふりがな)年齢、電話番号、返信用面には申し込む方の住所、氏名をご記入ください。

締め切り: 10月7日(金) (必着)

※視覚障害のある方は電話申込可

※聴覚障害のある方はファクス申込可

※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。

申込先: 〒114-0033 北区十条台1-2-5

中央図書館事業係 ☎ (5993) 1125 Fax (5993) 1044

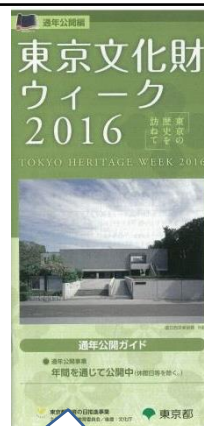


東京文化財ウィーク2016

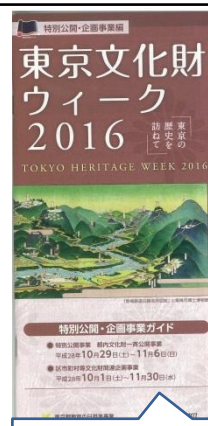
都民の皆様は文化財を身近に感じていただくため、毎年11月3日文化の日を中心に前後2か月にわたり東京文化財ウィークが開催されています。都内にある文化財を一斉に公開、また各区でイベント等の企画事業を行っています。

「北区の部屋」もガイドステーションとして、地域資料専門員が北区の文化財についての質問受付やガイドブックの配布などに協力しています。また、ガイドブックは中央図書館のほか、滝野川・赤羽図書館でも配布中です。秋のひととき、文化を感じてみませんか？

北区の部屋では、「飛鳥山碑」「西ヶ原一里塚」の説明ポストカードを配布しています。(無くなり次第配布終了)



通年公開ガイド



特別公開・企画事業ガイド

北区の部屋だより

第88号

2016年11月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 28 年 11 月発行

北区こぼれ話 第87回

明治時代、鉄道見物に群がった人々のマナーは

— 北区の鉄道開業裏話 —



北区には、有名な鉄道撮影スポットがあります。東十条駅西側の沿道です。その名はヒガジュウカーブ。この辺りは、フェンスが低く、しかもカーブのため迫力のある写真が撮れるのです。撮影は、静寂の中で進められます。ビデオカメラを回してる人、音を録っている人への配慮です。運転席にフラッシュを向けたり駅で騒いだりするような、マナーを知らない人はここに来ません。

今年（平成 28）9 月 7 日、そんな東十条駅周辺に大勢のカメラマンが集まりました。JR 東日本の新型超豪華寝台列車「トランスイート四季島」が、工場から区内の尾久車両センターまで電気機関車に牽引され、その行程の中で東十条を通過したのです。この列車による最初のツアーは、来年 5 月 1 日出発。申込者の最高倍率は 76 倍という超人気列車です。ちなみに、ツアー代金も超高級です。外から見るだけならタダですから、一目見たいと言うのが人情でしょう。



ある日の東十条駅周辺（平成 27 年撮影）

ところで、日本で言う鉄道オタクのことを、英語ではトレインスポッターと言います。列車を指さす人という意味です。では、北区で、語義どおり列車見物のトレインスポッターが現れたのは、いつのことでしょうか。

北区で鉄道が開通したのは、明治 16 年（1883）7 月 28 日のことです。日本鉄道会社が、上野―熊谷間に鉄道を建設しました。北区最初の駅である王子駅が開業したのもこの日です。実は、それより前、すでに試運転の段階で、沿線に人が集まり過ぎて問題とな

っていました。工部省鉄道局長の井上 勝 が、東京府知事芳川顕正へ送った書簡によれば、上野から川口の間で汽車の試運転をしたところ、物見高い人情のため、沿線の人々が見物に集まったそうです。「かこいちない 団地内に突入するもの往々これあり」というような混乱状態でした。トレインスポッターは、試運転で現れたということです。そして、ある日、子どもと女性が線路に入って負傷し、子どものほうが亡くなるという痛ましい事故が発生しました。この書簡には、さらに、子どもたちの悪戯として、置石がなされたことも書かれています。これは、脱線事故につながりかねません。井上鉄道局長は、芳川東京府知事へ、人身事故や置石のないよう、警察の取り締まりを嚴重にしてほしいと書き送ったのでした（『工部省記録 鉄道之部』第七冊、国鉄発行、昭和 52 年）。

当時の汽車は、時速 30 km 余りで走っていました。それでも、事故が発生したのです。現在の在来線電車は、当時の約 3 倍から 4 倍程度の速さで走っています。事故に巻きこまれないよう、そして、遅延の原因をつくらないよう、マナーを守りながら、鉄道を楽しみたいものです。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】



今月の展示

- ▶ 北区図書館活動区民の会・地域資料部企画運営
 * テーマ：大谷美術館（古河邸）の歴史と現在
 * 期 間：平成 28 年 10 月 28 日（金）
 ~11 月 23 日（水）まで
 * 場 所：「北区の部屋」展示コーナー

今回の展示は、10 月 22 日（土）に地域資料部企画運営で行われた歴史講演会：「大谷美術館（古河邸）の歴史と現在」の関連展示です。講師の塩谷 義氏（（公益財団法人）大谷美術館理事・東京大学名誉教授）のお話を基に、大谷美術館の歴史や大谷美術館賞などの活動に関してパネル展示します。



公開歴史講座

「破乱万丈！王子電気軌道の経営」



王子電車（現・都電荒川線）の運行に加え、電気事業や路線バス、さらに遊園地や宅地開発まで手を広げた王子電気軌道。その営業報告書から、同社の経営と地域の歴史を読み解きます。

- ◆日時：平成 28 年 12 月 17 日（土）
 午後 2 時～4 時まで
 ◆場所：中央図書館 3 階ホール
 ◆講師：黒川 徳男 地域資料専門員
 ◆定員：50 名（抽選・区内在住、在勤の方優先）
 ◆申込：往復はがきにてお申し込みください。
 往信面に①講座名、②郵便番号、③住所、④氏名（ふりがな）、⑤年齢、⑥電話番号を、返信面には申し込む方の①住所、氏名をご記入ください。
 ※ 視聴覚障害のある方は電話申し込み可。
 ※ 聴覚障害のある方はファクス申し込み可。
 ※ 手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。
 ◆締切：平成 28 年 12 月 3 日（土）（必着）
 ◆宛先：〒114-0033 北区十条台 1-2-5
 中央図書館事業係
 TEL：(5993) 1125
 FAX：(5993) 1044



◆◆◆「北区の部屋」のご紹介◆◆◆

「北区の部屋」では、北区に関連する図書、写真、古い地図、古文書等を収集しており、北区アンバサダー（北区宣伝大使／北区に縁のある5名の著名人）の著作物もあります。

その内の1人、小説家：内田康夫氏とえば「名探偵 浅見光彦」シリーズが有名ですが、主人公の浅見光彦氏はなんと北区民。住まいが西ヶ原にあるため、そこを中心に、平塚神社や滝野川警察署、旧古河庭園等、随所に北区が登場します。

「北区の部屋」には小説は勿論、映画「天河伝説殺人事件」のDVDや浅見光彦氏の住民票、毎年開催の地域イベント：ミステリーウォーク「名探偵★浅見光彦の住む町」のミステリー手帳等、関連グッズも揃えておりかなり見応えがあります。

一度「北区の部屋」に立ち寄って、小説の中に息づく北区の街で、浅見光彦氏の足跡をたどってみませんか？



北区の部屋だより

第89号

2016年12月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel.03-5993-1125 平成 28 年 12 月発行

北区こぼれ話
第88回

台風の被害と領主による救済 その2 ～領主としての役割～



安政3年(1856)8月25日の「きんらいまれ近來稀なる大風雨」で大きな被害が出た東叡山とうえいざん領の村々は、翌月になって領主である寛永寺に救済を願い出ました。11月に入ってこの願いは聞き入れられ、つぶ潰れ家に関し居宅1軒につきぜに銭1貫500文、物置1軒につき銭500文の割合で救済金が下付されることになりました。実際にこの金額で家を建て直すことが出来たとは思いませんが、領主から再建にともなう補助金が出たことは紛れもない事実です(その後、村々では潰れ家1軒につき銀5匁の割合で「御礼銀」が徴収され、東叡山寛永寺へお礼に参上することになります)。

さて、こうした領主による農民の救済活動は、何も東叡山に限ったことではありません。そもそも、江戸時代の領主と農民の関係はどのようなものだったのでしょうか。領主は農民から年貢などを搾り取れるだけ搾り取って、いつも苦しめていたと考えていませんか。確かにかつてはそのような江戸時代像が一般的でしたが、近年の研究では、農民たちが安心して生活できるように努めるのが領主の役割で、こうした領主の務めを果たすからこそ農民たちも年貢を払っていた、といった見方が強くなっています。したがって、こうした災害時に領主が農民の救済活動を行うのも、ある意味、当然の領主の役割だと理解されるのです。

江戸幕府についても全体の復旧を見越した動きを見せています。この「大風雨」によりおびただ夥しい数の家屋が倒壊したことで材木をはじめ様々な品の値段が跳ね上がり、大工や左官、屋根職人さらには日雇いの賃金も高騰しました。その結果、貧しい農民たちが苦しんでいるとして、幕府はこうした諸職人たちが不当に賃金を引き上げないように触を出すとともに、彼らの1日の手間賃を決め、これを遵守する旨の請書を職人たちから取るのでした(「岩淵宿町文書」)。これも最大の領主である幕府の役割と理解してもいいのかもしれません。

江戸時代の領主は、農民から年貢を取るだけで偉そうにしている、実際、何もしなくて…、そんな見方が変わっていったのは、何も新しい歴史資料が発見されたからではありません。研究者をはじめとする現代の私たちの、歴史に対する見方が変わったのです。そう、歴史というものは、新しい資料が発見されなくても変わっていくものなのです。

【地域資料専門員 保垣孝幸】



◆◆◆ 今月の展示 ◆◆◆

◆テーマ：1986 再開発みちなかば
ー赤羽西口APIRE^{あびれ}オープンの頃ー

◆期 間：11月25日(金)～12月28日(水)

◆場 所：「北区の部屋」展示コーナー

今年、平成28年(2016)は、昭和61年(1986)の赤羽駅西口 APIRE のオープンから30周年です。
まだ、ビビオやイトーヨーカドーが無かったあ
のころ。再開発によって急激に変わっていった、
赤羽駅西口の風景をご覧ください。

3月6日 OPEN の垂れ幕が
掲げられた工事中の APIRE
ー昭和61年2月3日ー

再開発工事なかばで運用
開始した西口バスロータリー
ー昭和61年12月5日ー

♪ お知らせ ♪

DVD「北区映像アーカイブによる 街おこしシリーズ」第3弾貸出開始

区民の皆様より提供していただいた懐かし
い北区の映像フィルムでテレビ化して
DVD シリーズの3弾です。今回の公開は以
下の10本。昭和30～40年代
の懐かしい北区をぜひご覧に
なってください。



vol.	上映分数	撮影時期	主な内容
19	70分3秒	1959年～ 1977年	滝野川第七小学校 (学校行事撮影)
20	96分33秒	1961年～ 1969年	旧古河庭園・平和橋・ 荒川小学校運動会・他
21	110分59秒	1969年～ 1972年	中十条3丁目付近・ 荒川小学校運動会・七五三
22	44分34秒	1967年～ 1972年頃	王子本町2丁目・王子神社の お祭り・飛鳥山公園・他
41	22分44秒	1970年～ 1971年	西ヶ原4丁目の自宅周辺・ 六義園・旅先の風景・他
44	17分5秒	1962年	滝野川1丁目・飛鳥山 商店街「競争横丁」・他
45	12分44秒	1970年～ 1972年	飛鳥山公園・滝野川1丁目 ・榎の木幼稚園
56	14分56秒	1960年	赤羽駅前・十条製紙社宅・ 豊島4・5・6丁目
57	12分26秒	1955年	志茂2丁目(自宅・他)・ 王子5丁目・豊島6丁目
64	6分50秒	1976年	旧古河庭園 (本庭園・洋風庭園・洋館)

「親子で謎解き！ 中央図書館ナイトツアー」

▶企画・運営：北区図書館活動区民の会

対 象：区内在住の小学生と保護者

※ 必ず保護者同伴。

日 時：平成29年1月15日(日)

午後4時45分～午後7時

場 所：中央図書館3階ホールに集合

内 容：誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。
普段、何気なく利用しているこの場所は、
実は…？ 親子で謎を解きながら歴史の
核心に迫る！

定 員：20組(抽選)6年生優先

申 込：ファクスまたは往復はがきに講座名、郵
便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、
電話番号(FAX 番号)、返信用面に申込
む方の住所、氏名を記入して12月26日
(月)(必着)まで。

※ ファクス申込書は各図書館にあります。
また、北区ホームページからダウンロード
できます。

申込先：中央図書館事業係

〒114-0033 北区十条台 1-2-5

TEL:5993-1125/FAX:5993-1044

ーお詫びと訂正ー

「北区の部屋だより」第88号(11月号)掲
載の公開歴史講座「波乱万丈！王子電気軌道の
経営」欄の受講申込の締切日に誤りがありまし
た。お詫び申し上げますとともに、下記の通り
訂正させていただきます。

<誤> 『締切日：平成28年12月3日』



<正> 『締切日：平成28年12月9日』

北区の部屋だより

第90号

2017年1月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 29 年 1 月発行

北 区
こぼれ話
第89回

とうど 唐土の鳥が渡らぬさきに ななくさがゆ ～七草粥の歌～



毎年、1月7日が近づくと、八百屋さんの店先やスーパーの野菜売り場で「春の七草」のセットを見かけます。1年間の無病息災を祈り、七草粥を食べるご家庭も、少なくないでしょう。七草粥は、冬に不足しがちなビタミン類を摂取するための、昔の人の知恵と説明されることが多いようです。餅を入れるご家庭も多く、現在では、正月に余った餅を消費するという意味合いが強くなっているのかもしれません。

春の七草をおぼえるための歌に「せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ、春の七草」というものがあります。五・七・五・七・七のリズムで唱えます。最後を「これぞ七草」とする人もいます。



春の七草については、もう一つの歌があります。七草粥を調理する時の歌です。「北区の部屋」所蔵「高木助一郎日記」(中十条)明治43年1月7日の記述をご紹介します。

「本日八俗二云フ七草正月ナリ、里俗云フ『唐土ノ鳥ガ渡ラヌ先キニ扣イテ囃セ』ト是ノ言ハ朝家タノ台所ニテ七草ヲタタキキザミテ、是ニテ、七草粥ヲ造ルナリ、サレドモ今ハ此ノ歌殆ンドスタレテ七草粥ヲ造ル家サエ稀ナリ、予ノ家ニテハ七草粥ヲ造ル」。

「唐土ノ鳥ガ渡ラヌ先キニ」というところを読んだ時「これ、どこかで聞いたなあ。栃木県の農村で年中行事のお話を聞いた時、高齢の女性が歌っていたのと同じだ」と思ったのです。この歌は十条特有のものではなく、全国の様々な地域で少しずつ異なった詞で歌い継がれています。区内でも、滝野川のある家では「七草、ナズナ、唐土の鳥と日本の鳥と、渡らぬ先に、トントン」(『北区史』民俗編1)と歌います。田端のある家では「七草なすな、唐土の鳥が日本の国へ渡らぬさきにストントン」と歌います(前掲書2)。浮間のある家では、少し長めに「七草ナノカ、唐土の鳥が日本の国に渡らぬ先に、スットコトンヤトンヤレナ」となります(前掲書3)。後半が擬音になってしまう歌が多い中で「高木日記」が「扣イテ囃セ」と記述しているは注目に値します。トントンなどの擬音の意味を説明し得るものだからです。これらの擬音は、七草を切るときに、包丁がまな板をたたく音を表しているものであり、その音を囃したことで、大陸から渡ってくる鳥を追い払うと解釈できます。

民俗学では、この歌について『御伽草子』の「七草草子」という説話との関係や、農作物に被害与える鳥を追い払う「鳥追い」という年中行事との関連で解釈されています(大塚民俗学会編『日本民俗事典』弘文堂、「七草」「鳥追い」ほか)。

では、私もいただきます。

【地域資料専門員 黒川徳男】



今月の展示

～北区のお正月～

期 間：平成 29 年 1 月 5 日（木）～1 月 25 日（水）

場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー

もう年中行事を行っていない家も増えてきていると思いますが、正月だけは、まだ、何かしらの行事を行っているのではないのでしょうか。

1 年のうちで始めに訪れるのが正月です。

今回の展示では、区内各地で行われていた正月準備から三が日の様子まで様々なお正月を紹介します。

たばたぶんしむら

～今、田端文士村が熱い！……かも！？～

2016 年度上半期、NHK 連続テレビ小説「とと姉ちゃん」が大ブレイクでしたね。その中に、ヒロインが学生時代に影響を受けた雑誌「青鞥」を創刊した作家「平塚らいてう」が登場していました。この人、確か前作の「あさが来た」でも出ていて……って、ちょっと待って！ 平塚らいてうって、「田端文士村」の人じゃなかったっけ！？

田端文士村、区民なら是非知っていてほしいので、少し紹介してみたいと思います。

田端文士村とは、明治末期～昭和初期頃に、現在の北区田端近辺に多くの文士や芸術家達が集まり、文士村が形成されていた際の地域の呼称です。作家なら芥川龍之介や室生犀星あたりが有名ですね。近年スタジオジブリで映画化された「風立ちぬ」の著者：堀辰雄も文士村のメンバーでした。一時的に滞在した人を含めれば、漫画「のらくろ」の田河水泡や、「待てど暮らせど来ぬ人を～」で有名な「宵待草」の竹久夢二もいます。

ちなみに平塚らいてう（明治 18 年生まれ）は、まだ女性の社会進出が難しかった時代に日本女子大学校（現：日本女子大学）に通い、戦前・戦後女性の権利や平和のために奔走した活動家です。思想家・評論家、作家として多くの著書も残しています。前述の青鞥に掲載した「元始、女性は太陽であった」は、女性の権利

➡ 獲得運動を象徴する言葉の一つにもなりました。

実は北区にも著名人はたくさんいたのです！ ……という訳で、北区が誇る文士や芸術家に少しでも興味をもたれたら、彼らの作品を手にとってみてください。書籍の一部は北区の部屋カウンター側出入口傍・28 番棚に「田端文士村コーナー」を作って配架してあります。

他、田端の「田端文士村記念館」には彼らの作品や原稿、書簡等貴重な資料が多く所蔵されています。現在、室生犀星と萩原朔太郎（詩人）の企画展や、芥川龍之介や太宰治ら文豪キャラクターが繰り広げる異能力バトル漫画「文豪ストレイドッグス」とのコラボ展が 1 月 22 日まで同時開催中です。そちらも是非行ってみてください。

今、田端文士村が熱いですよ～！！



「北区の部屋」のご案内

みなさんは「社史」をご存知でしょうか。

社史とはそのまま「社」の歴史、会社の歴史

を企業が自ら書籍にしたもので、多くの企業が創立〇〇周年記念等で社史を発行しています。

当然、「北区の部屋」でも、社史は当時の北区を知る上で貴重な資料となるため、収集・保存に力を入れております。有名どころなら「なとり五十年のあゆみ」、「トンボ鉛筆完全ブック」、「キリンビールの歴史」等。他にも警察署や消防署、病院、銀行、鉄道会社

等様々です。意外と北区に関連する有名企業があったりします。

「ほほ～う、あの企業って北区に本社があったのか～」

なんて思いながら社史を手取るのも面白いかもしれません。

北区の部屋までちょっと覗きに来てみませんか？

